

## 平成28年度 臨床看護学ユニット研究活動状況

### 1. 構成メンバー

井村弥生, 北得美佐子, 兒嶋章仁, 宇田賀津,  
紅林佑介, 野田部恵, 阿部香織, 川端明雄, 今井幸子

### 2. 研究活動の概要

ユニット研究は、個人研究、共同研究、科研費採択による研究である。

- ・共同研究としては、日本看護教育学会の助成を受け、「術後患者の観察能力習熟への教育方法の検討」をテーマに、平成25年度～28年度で研究活動を実施した。
  - ・科研費採択による研究は、昨年2テーマ採択され精力的な研究が進められている。
- ①挑戦的萌芽研究「がんを患う地域住民に向けたセルフマネジメント支援モデルの実証的研究」として、『知って得するがん在宅療養のコツ!』市民講座を全5回開催した。
- ②研究活動スタート支援「統合失調症患者の認知機能と身体活動量の関連性の解明」

### 著書

井村弥生, 板東正己ほか編著, 平澤久一監修: 表情看護のすすめ 第2章 表情看護 理論編 電子版, P74-81, メディカ出版, 2016.11.

### 論文

Yusuke Kurebayashi, Junichi Otaki : Neurocognitive functions in remitted and non-remitted patients with schizophrenia: a cross-sectional study, Perspectives in Psychiatric Care, 2016 (Early View)

Yusuke Kurebayashi : A literature review on Study' s methodology of nursing care for Patients with schizophrenia considering their neurocognitive functions, International Journal of Human Sciences 13 (1) ; 2019-2031, 2016

石野レイ子, 兒嶋章仁, 吉田宗平 他 : 成人の運動習慣を継続するための支援に関する実証的研究—運動習慣の

継続要因の検討—, 関西医療大学紀要, Vol.10, 16-24, 2016.

野田部 恵, 作田 裕美, 坂口 桃子 : 日本の看護師の「組織市民行動」の因子構造, 日本看護管理学会誌, 第20巻2号, 115-125, 2016.

川端明雄:「社会的相互作用障害」のある統合失調症患者が目標達成に至るまでのプロセス日本看護協会, 第47回日本看護学会論文集(精神看護) p55-P58, 2016.

Yusuke Kurebayashi, Junichi Otaki : Correlations between physical activity and neurocognitive domain functions in patients with schizophrenia: A cross-sectional study, BMC Psychiatry, 17:4, 2017

### 学会発表

紅林佑介, 大瀧純一, 利田泰之 : 入院中の統合失調症患者における身体活動量と認知機能との関連, 第112回日本精神神経学会学術集会, 2016.6

北得美佐子, 水雲 京, 石井京子, 月山 淑, 川股知之, 森田達也, 木澤義之, 恒藤 暁, 志真泰夫, 青山真帆, 宮下光令 : ホスピス・緩和ケア病棟の遺族ケアに関する研究, 第21回日本緩和医療学会学術大会, 京都, 2016.6. (優秀演題賞受賞)

北得美佐子, 水雲 京, 石井京子, 月山 淑, 川股知之, 森田達也, 木澤義之, 恒藤 暁, 志真泰夫, 青山真帆, 宮下光令 : ホスピス・緩和ケア病棟の遺族ケアの改善点に関する研究, 第21回日本緩和医療学会学術大会, 京都, 2016.6. (優秀演題賞受賞)

井村弥生, 兒嶋章仁 : 看護学生の術直後の患者の観察時における視線軌跡の傾向—看護学生と看護師との比較—, 日本看護学教育学会 第26回学術集会 研究助成成果発表, 東京, 2016, 8.

阿部香織, 井村弥生 : 看護大学生の実習期間前後での体内脂肪量と食品摂取状況の比較(第2報) 第42回日本看護研究学会学術集会, つくば, 2016, 8

Yusuke Kurebayashi, Junichi Otaki: The feature in neurocognitive functions in patients with remitted and non-remitted schizophrenia. 9th ICN INP/APNN conference. 2016.9

川端明雄:「社会的相互作用障害」のある統合失調症患者が目標達成に至るまでのプロセス, 第47回, 日本看護学会 精神看護, 青森, 2016, 9

Yusuke Kurebayashi, Junichi Otaki: Physical activities and neurocognitive functions in inpatients with non-remitted schizophrenia. 22nd World Congress of World Association of Social Psychiatry. 2016.12

Yusuke Kurebayashi, Junichi Otaki: The demographics and psychiatric symptoms influencing spatial attention in patients with schizophrenia. 22nd World Congress of World Association of Social Psychiatry. 2016.12

川端明雄:「精神科病棟における組織風土とアサーティブコミュニケーションがストレスに及ぼす影響-精神科病棟の病棟機能別にみるストレスの関連要因-, 第27回 日本産業ストレス学会, 東京, 2016, 12.

北得美佐子, 宇田賀津, 野田部恵, 今井幸子: がんを患う地域住民に向けたセルフマネジメント支援モデルの実証的研究-第1報-, 第31回日本がん看護学会, 高知, 2017.2

宇田賀津, 今井幸子, 北得美佐子: 終末期看護論の講義における看護大学生の死生観および終末期患者に対する態度育成の効果の比較-第2報-, 第31回日本がん看護学会, 高知, 2017.2

Yusuke Kurebayashi, Junichi Otaki: The relationship between change in physical activity and neurocognition among people with schizophrenia; a longitudinal study, 20th EAFONS, 2017.3

Yusuke Kurebayashi, Satomi Ikeuchi, Aiko Hamada: Does self-focus differ between psychiatric and general nurses? A cross-sectional study, 20th EAFONS, 2017.3

## 社会活動

紅林佑介: 久米田病院教育委員会研修、統合失調症患者

者の認知機能に関する研究動向と看護ケアへの示唆, 2016.7

井村弥生:「看護過程の展開と看護記録」, 岸和田徳洲会病院, 2016, 8, 6.

井村弥生:「口腔ケアをおこなって食事を楽しみましょう」, しまうまサークル@関西 (神経内分泌腫瘍カルチノイドの患者会, 京都, 2016.6.(2016.6. 23読売新聞掲載)

紅林佑介: 日本保健福祉学会誌、査読者

## (科研採択費などによる研究)

北得美佐子, 宇田賀津, 野田部恵, 今井幸子: がんを患う地域住民に向けたセルフマネジメント支援モデルの実証的研究, 科研研究補助費 (挑戦的萌芽研究), 研究課題番号15K15180, 2015 ~ 2017.

『知って得するがん在宅療養のコツ!』市民講座開催  
第1回 6/18『体調管理と症状を和らげるコツ!』  
第2回 8/6『家庭でできる快適生活のためのリハビリテーションのコツ!』  
第3回 10/1『健康的な生活をおくるための東洋医療の活かし方&ストレス対処法』  
第4回 12/17『からだや心の痛みのコントロール・緩和ケアのコツ!』  
第5回 2/18『在宅療養に関わるお金&情報を役立てるコツ!』

北得美佐子, 水雲 京, 石井京子, 森田達也, 宮下光令: 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団, 緩和ケアの評価の質に関する研究3 (J-HOPE3) 付帯研究P I, ホスピス・緩和ケア病棟の遺族ケアに関する研究, 2013 ~ 2018.

北得美佐子, 角甲 純, 小林光成, 森川みはる: 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団, 緩和ケアの評価の質に関する研究4 (J-HOPE4) 付帯研究P I, 「遺族からみたホスピス・緩和ケア病棟による望ましい遺族ケアの提供に関する研究」, 2017 ~ 2020.

紅林佑介: 入院中の統合失調症患者の身体活動量と認知機能に関する縦断研究、平成28年度関西医療大学奨励研究

紅林佑介：統合失調症患者の認知機能と身体活動量の関連性の解明、科学研究費（研究活動スタート支援）、課題番号15H06762、平成27年から平成28年